

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和7年度第6回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和7年10月14日（火） 午前10時30分 ～ 午前11時40分
開催方法	公室
出席者氏名	市 長 菅原 文仁 副市長 豊島 浩明 委員 長 佐藤 徹 副委員長 長野 基 委 員 青山 裕之 委 員 溝上 西二 委 員 宮崎 仁美 委 員 悴田 康二 委 員 古賀 麻明利
欠席者氏名 （委員）	無し
説明のため 出席した者	無し
事 務 局	企画財政部 渡邊部長 山下次長 共創企画課 渡辺課長 北田副主任 藤田主任
議 題	答申及び意見交換
会議の経過 及び 会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 資 料	・ 次第 ・ 答申書及び別紙

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
市長	1 開 会 2 市長挨拶 日頃から委員の皆様には本市の市政運営、そして今回の評価において様々な御協力をいただき感謝申し上げます。 4月から短い期間で5回の委員会を行い、熱心な審議がなされ、忌憚のない御意見を頂戴したと聞いている。6施策でいただく御意見・御指摘を改善策につなげることは我々の責任と考えている。 現在、第5次総合振興計画の後期基本計画の策定作業を行っており、皆様からいただいた貴重な御意見はしっかりと受け止めて、可能な限り市政に活かしてまいりたい。 本日の皆様の感想なども伺いながら、しっかり受けとめていきたい。何卒よろしくお願い申し上げます。
委員長	3 答 申 4 意見交換 私が外部評価委員に任命されたのが2011年度で、今年が15年目である。2021年に現行の総合振興計画がフルモデルチェンジでスタートし、菅原市長から新たな行政評価制度について諮問をいただき、そこで外部評価ヒアリングにロジック・モデル導入の答申をした。翌年から外部評価委員会ではロジック・モデルが導入され、2期4年実際に運用した。 ロジック・モデルは、一定の有効性があることが実証されたと思っている。コロナ禍以降、ロジック・モデルは国の政策評価だけでなく、県や市町村でも導入され、民間企業や大学にも普及している。ロジック・モデルが将来のビジョンを実現するための過程を可視化させ、そのプロセスに様々な関係者が参加することで、コミュニケーションツールとして、さらにその後のマネジメントツールとして活用され始めている。 行政評価やEBPMの分野において、戸田市はトップランナーの一角を占めていると考えており、私が様々なところで講演する際、必ず戸田市の取組

	を紹介している。 ロジック・モデルが内部でどの程度活用されているかは分からないが、コミュニケーションツールや業務の引継ぎ等、多面的に使えられている。 様々な自治体でロジック・モデルを活用した取組が実施されているので、参考にしながら次のステージに進んでいただきたい。
市長	ロジック・モデルの活用は非常に重要であると改めて感じた。会議等で活用されたり、職場のコミュニケーションツールになったりしていないのが実情である。個人的には、予算審議においてロジック・モデルを活用すると良いと考えている。 ロジック・モデルにおいて、同じ言葉でも意図しているものは何なのか、共通認識できることが大事である。まだ職員にそこまで落とし込めておらず、課題であると感じている。
委員	外部評価の中に、資源の方向性の議論がある。現代社会において、様々な部分で技術革新によりA Iやロボティクスの利用が進んでいる。例えば、市全体としてあるシステムを導入することでコストが下がる一方で、インフレの進行に伴い全体としてはコストが上がってしまう場合がある。総合振興計画には行政改革についても記されているが、市全体のシステム改革によって改良された部分、セクションあるいは施策としての努力で改善された部分の2層について、施策単位あるいは事業単位で可視化するのが望ましい。 また、来年度から開始される「こども誰でも通園制度」等、第5次総合振興計画策定時には想定していなかったことが発生する場合があるため、毎年度更新するロジック・モデル上では、そのギャップが分かるようにするとよい。 人口20万人規模の自治体でも民間病院が閉院してしまったニュース等を見聞きすると、戸田市は安定していると感じる。
市長	基礎自治体なので、法律や制度にのっとりた業務が多く、特に医療や保険分野においては評価がしづらかったと推察する。 効率化については、進めていきたいと思いながら抑えている部分もある。 国の進めるシステム標準化については、地域によっては効率化に繋がって

	いないと感じている。本市では、業務の効率化を目的に先行してカスタマイズしてきたものを元に戻すような作業も行っており、各部署で大きな負担となっている。 委員 総合振興計画とロジック・モデルの整合性が取れない施策が一部あったが、ロジック・モデルは総合振興計画を理解する上で非常に便利なツールであると感じたので、是非今後も続けていただきたい。 今回の施策評価については、戸田市だけではどうにもできない、国が絡む施策も非常に多く、評価しづらかった。 行政の様々な委員会に参加する中で、比較的深度を必要とされる見解が求められることが多いので、評価に必要な時間をより確保できれば、更にお力になれると思った。施策を動かすところ、計画のところ、人が動くところ、ものが動くところなど、必ず数字が動くところについては、公認会計士もお力になれると考えているので、今後も専門家の活用を御検討いただきたい。 市長 総合振興計画とロジック・モデルの間のずれは確かに存在すると考えている。現在、後期基本計画の策定を進めており、整合性が取れるよう調整したい。 また、大変厳しい条件で委員を務めていただき、大変感謝している。今後も日本会計士協会には是非お力添えいただきたい。 委員 2年間委員を務め、12施策の評価に携わった。全般にわたって戸田市の職員は努力し、様々な知識を得て、スキルアップしながら業務に取り組んでいると感じた。 私の信念は有言実行であり、市の職員も、言ったことは必ずやり遂げるという意識で取り組んでほしい。近年、各部署で退職者が多く出ており、特に技術係専門職の退職者が多いという点はいかななものかと思っている。新しい人材を取り入れるに当たり、民間企業の取組も参考にすることを提案したい。 また、昨今様々な自治体の職員に関する問題が起こっている。戸田市は菅原市長が一生懸命リーダーシップを発揮しているので安心しているが、不祥事等はないようにしていただきたい。
--	--

市長	専門職の退職者が多いことは大きな課題として認識している。退職者が民間に流れていることもあり、民間の採用についても研究する必要があると思っている。 東京都と隣接していることもあり、同じ自治体職員であっても、待遇面で比較されると厳しい部分があることも事実である。校舎やスポーツセンターの建て替え、ポンプ場や浄水場の更新、橋の架け替え、道路整備等、大きな事業を多く抱えており、技術系専門職がやりがいを持って取り組めるような環境を整えたい。
委員	4年間に渡り外部評価委員として大変貴重な経験ができたことに感謝している。 委員になるまでは、総合振興計画も外部評価委員会も知らなかった。委員を務めたことを契機に、たくさんの方が戸田市を良くしようと取り組まれていることを実感できた。 総合振興計画の指標に関しては、目標と施策の間にずれが生じていたり、意図が分かりづらい指標がいくつかあったりしたので、今後改善してほしい。 私自身、今年引っ越してしまい戸田市民でなくなってしまったが、戸田市に約37年間住みながら子育ても経験してきた。特に不満もなく毎日を過ごせたのは、やはり戸田市の市民も職員も一緒になって、戸田市のために取り組んでいたからだと思う。これからは、自称戸田市大好きサポーターとして戸田市を応援していきたい。
市長	何のための施策であるのか、施策指標で見失ってしまっている部分がある。前例踏襲に陥りがちな部分もあり、改めていかなければならない。
委員	市民委員という「税を納めている者」という観点から2年間提言させてもらってきた。 戸田市独自の観点で社会を捉えることで、国や県とは異なる部分が出てくるはずである。その結果として、国や県に対して提言を行うことも、市の1つの機能としてあるべきである。

	ロジック・モデルは効果的な手法である一方で、戸田独自の視点が希薄な部分が見受けられた。現状認識のレベルが非常に抽象的であるがゆえに、具体的な論理展開ができていないと思われる。 また、指標の設定に関しても改善が必要である。例えば、総合振興計画上、安全な道路環境の整備・推進に当たり、危険箇所道路標識等を設置することが記載されている。しかし、その不安全箇所の数やレベルなどの具体性がなく、議論のしようがないので、具体的なボトルネックをどのように評価し、どのタイミングでどのような施策を行うのかを考えれば、適切な指標が見えてくるはずである。 施策の費用対効果についても、一市民の立場として興味深く見ている。例えば、総合振興計画に自転車専用通行帯の写真が掲載されているが、道路の塗装に加えて標識の設置までする必要があるとは思えない。 市の花であるサクラソウは、ボートコース周辺に植えて、ボートと共に楽しめるようにしてほしい。市の木であるキンモクセイは、高等学校と連携してアロマにして商品化することを検討してほしい。 市長 市として独自性を発揮することは重要であると認識している。独自性の中には、何か特別な取組を行うことだけではなく、検討時点の必要性から逆に人口減少対策をしてこなかったこと等、何かをしないことも含まれる。第5次総合振興計画の後期基本計画では、独自性を発揮することも重視したい。 市の花であるサクラソウについては、繁殖力が弱く、湿地でないと育たないという特徴がある。戸田ヶ原など湿地が多かった時代に比べて、河川の堤防整備や雨水対策により湿地が少なくなっていることから、園芸種と呼ばれる丈夫なサクラソウを少しずつ植えている。また、サクラソウは埼玉県の花でもあるから、毎年3月に埼玉県知事とサクラソウ談義を行っている。 市の木であるキンモクセイについては、もっと増やしたいと考えている。PRとしては、キンモクセイの香りがついたはがきを、イベント等のノベルティとして提供している。 委員 公募市民として、2期にわたり外部評価委員を務めた。戸田市には約30年間住んでおり、ホームページにて公募の情報を偶然見て応募したことがき
--	---

市長	っかけである。第5次総合振興計画やロジック・モデル等を知ることができ、非常に貴重な経験となった。 また、外部評価委員を務めたことで、多角的な視点で市政を見ることができ、花火大会などの市のイベントも、今までとは違った観点で体験できた。 若い世代が市政に関わる機会を増やし、当事者意識を持つようになることで、戸田市に住んでいて良かった等の実感も持ってもらえることにつながると思う。 なお、現在外資系企業に勤めており、外部評価委員としての活動に関して、ボランティア休暇という有給休暇が取得できるので、仕事と両立しながら務めることができた。 若者の市政への参加は非常に重要であると認識している。子どもや若者の声をどのように取り入れてデザインするか検討を重ねている。きっかけとしては、若い人が参加しやすいイベントの開催が効果的であると考えており、祭りや花火大会をきっかけに市への関心・愛着が増すのではないかなと思う。 5 閉 会
----	---